

授業科目	＊解剖生理学						実務家教員担当科目	－	
単位	2	履修	必修	開講年次	1		開講時期	前期	
担当教員	岡部 明仁								
授業概要	将来管理栄養士として、傷病者や特定の個人の栄養管理を行う仕事に従事する上で、正常な生命活動の仕組みについての理解が欠かせません。本科目では、人体の基本的構造と、その恒常性を維持するための仕組みについての概略を学習します。特に、目的に合わせて、さまざまな形態・機能を備えるべく分化した細胞と、それらが営む生命活動の不思議さについての感動を共有出来るような授業を目指したいと考えています。								
授業形態	対面授業				授業方法				
学生が達成すべき行動目標									
標準的レベル	1. 骨と筋肉、運動や感覚に関わる神経系、血液細胞の働き、免疫の仕組みについての基本的な用語について説明できる。(DP1-1、DP1-2、DP4-1) 2. 泌尿器系の基本となるネフロンの概略図を描き、各部の名称を書き込むことができる。(DP1-1、DP1-2、DP4-1) 3. 血液循環の仕組み、肺におけるガス交換、血圧と血圧調整の仕組みについての基本的用語について説明できる。(DP1-1、DP1-2、DP4-1) 4. 運動神経や感覚神経および自律神経系について構造と機能を説明できる。(DP1-1、DP1-2、DP4-1)								
理想的レベル	標準的レベルをすべて達成したうえで、 1. 骨と筋肉、血液細胞の働き、免疫の仕組みについて概要を理解し説明することができる。 2. 泌尿器のはたらき、血液の組成、血液循環の仕組み、肺におけるガス交換、血圧と血圧調整の仕組みについての記述の正誤を判断できる。								
評価方法・評価割合									
評価方法			評価割合（数値）				備考		
試験			100						
小テスト									
レポート									
発表（口頭、プレゼンテーション）									
レポート外の提出物									
その他									
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング									
DP1	○	DP2	－	DP3	－	DP4	○	ナンバリング	NT11201J
学習課題（予習・復習）									1 回の目安時間（時間）
教科書による予習と復習									4
授業計画									
第 1 回	解剖生理を学ぶための基礎知識 1 －人体の素材としての細胞・組織－								
第 2 回	解剖生理を学ぶための基礎知識 2								

	ー構造と機能から見た人体ー
第3回	身体の支持と運動 1 ー骨格と骨格筋ー
第4回	身体の支持と運動 2 ー上肢・下肢の骨格と筋ー
第5回	身体の支持と運動 3 ー頭頸部の骨格と筋ー
第6回	身体の支持と運動 4 ー筋の収縮ー
第7回	呼吸と血液の働き 1 ー呼吸器の構造ー
第8回	呼吸と血液の働き 2 ー呼吸器ー
第9回	呼吸と血液の働き 3 ー血液ー
第10回	血液の循環とその調節 1 ー心臓の構造と機能ー
第11回	血液の循環とその調節 2 ー末梢循環系の構造ー
第12回	血液の循環とその調節 3 ー血液の循環調節、リンパとリンパ管ー
第13回	体液の調節と尿の生成 1 ー腎臓の構造と機能ー
第14回	体液の調節と尿の生成 2 ー排尿路ー
第15回	体液の調節と尿の生成 3 ー体液の調節ー
テキスト	坂井建雄他監訳 「プロメテウス 解剖学アトラス」 (医学書院) 小澤澁司他監修 「標準生理学」 (医学書院) 藤田恒夫他著 「標準組織学 総論」「標準組織学 各論」 (医学書院) 坂井建雄他訳 「カラーアトラス 顕微鏡写真で見る細胞組織学」 (メディカル・サイエンス・インターナショナル) 小学館の図巻 NE0 「人間 いのちの歴史」 (小学館)
参考図 書・教材 ／データ ベース・	授業の終わりに毎回小テスト (評価対象としない) を行い、授業の中でそれについての解説を行う。

雑誌等の 紹介	
課題に対 するフィ ードバッ クの方法	特になし ・講義では配布資料を配ります。配布資料は教科書の図の説明です。配布資料を忘れても教科書に書き込めばカバーできるようになっています。 ・講義や実習内容の中で興味を持った事柄について、まずは教科書をよく読み、キーワードの周辺にそれを理解する説明があるかどうかを探してください。その他、参考書を読んだり、インターネットで調べたりといった「自学自習」の習慣を身につけてください。 ・インターネットを使って検索するというのは重要なスキルではありますが、最初から検索しないよう心掛けてください。
学生への メッセー ジ・コメ ント	